

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年7月1日(水) No.12
文責：情野 夏美

山形県小・中学校教育研究会 算数・数学部会

置賜ブロック研究協議会東置賜大会 に参加してきました！

昨日、亀岡小学校を会場に行われた置賜ブロック研究協議会に参加してきました。宮城教育大学 教授 市川 啓 氏の5年算数「比例」の示範授業と講演、宍戸指導主事による昨年度の教科担任マイスターの実践を聞いてきました。その内容をご報告します。

【示範授業】※指導案は回覧します。

- ・問題ではあえて不足させて提示する。子どもに何が分かるか解けるかを考えさせる。
問題→非常階段で1階から6階まで上ります。全部で何段あるでしょう。
後からの追加情報→1階から3階まで上ったら18段でした。
- ・立式した数の意味を問う。
ほとんどの児童が 18×2 と立式する。
18は？→1階から3階までの上った段数！
2は？（問題文には書いていない！）→1～3階までが18段で、4～6階までも18段あるから！
- ・すべて計算で求めさせようとはしないで、図や絵を使わせる。
→ $18 \times 2 = 36$ 段ではおかしいことに気づかせる。

【講演】

- ・間違いを修正する力（自分で確かめながら進めていく力）をつけさせたい。
- ・山形県は、図や絵を使って問題を解くことが苦手。すぐ式に頼るのではなく、図や絵を使って考えを表現させることをさせたい。
- ・子どもが気づくまで、教師は待つ＝自立していくため
- ・演算の意味を考えさせたい。根拠をもって立式しないといけない。
- ・教材研究は系統性を持たせる。いきあたりばったりではいけない。
- ・子どもは教師の顔をうかがっている。にこにこ笑顔ではなく、「おかしくない？」「そうかな？」と思考をめぐらせる声かけも行っていく。
- ・一つの問題を深く解くことと、練習問題を解くことのバランスが重要。どちらがいいとかではない。

【教科担任マイスターの実践】

- ・これまでの学びをつなげている場面が大事。
- ・既習を活かす→掲示、デジタルで共有、ノート、教科書
前の学びを振り返り、新しい学びに生かす。
- ・説明する力→教科書を積極的に使う（どこに何が書いてあるかを指導する）、教材研究、子どもの考えの共通点に教師が気づけるか。
- ・対話する力→ICTを上手く使いながら、他者参照する（考えの共有だけでなく、気持ちの交流もさせる）、デジタルが自分の考えのための助けになるようにする。
- ・統合的（つまり～ってことだよな）、発展的（だったら～もできそうだね）
- ・知識を相互に関連付けて、より深く理解する授業へ。